

2020年度 事業報告

(2020年4月1日 ～ 2021年3月31日)

2020年度の概況

2020年度スタートは、国難とも言える新型コロナウイルス感染症が全国に広がり、外出制限や活動自粛、行動変容など私たちの取り巻く環境が激変したところから始まりました。三密、クラスターなど新しいことばを見聞きしながら、一日一日の生活を大事にしてきました。

そんな状況下でも4月1日 念願のサンシャイン訪問看護ステーションを開所いたしました。開所しても営業活動を活発に実施することが出来ず、利用者が増えなかったこともありました。しかしながら「病院に入院しても、家族と会えない」と退院し在宅での看取りの看護を3事例実施いたしました。徐々に利用してくださる方も増えていきました。

また、新型コロナウイルス対策をしながら、7月29日に豪雨による最上川氾濫や土砂災害で多くの家屋が被害を受け、対応に苦慮する1年となりました。ご利用者を1階屋上に垂直避難させるための、外部階段の設置について、山形市に補助申請しました。また、暖房器具や感染防止対策用品、排せつ用品、水や食料品の備蓄についても準備をしました。災害に対する考え方、備蓄や応援体制の在り方に継続的に検討しています。

幸いに、当施設のご利用者、職員に被害がなく、運営にも大きな支障がなく1年を過ごせたことは、「ありがたいこと」と感謝しております。

各事業部門報告

() は前年度数値

(1) 特別養護老人ホーム

4月1日から入所定員数を80人から90人と10人分をショートステイから転換いたしました。事前準備を実施していたため、スムーズにひと月以内で満床となりました。

入所者とご家族をつなぐ面会制限が当初ありましたが、7月からテレビ面会を導入しました。外出する機会が減ってしまい、団体でのイベントも自粛していましたが、出前をとり、お寿司やラーメンにビールなど、小さな楽しみを見つけました。インフルエンザなど感染症に罹患する利用者もありませんでした。

内訳は利用者定員90人に対し、平均利用率98.9%(98.9%)、平均要介護度3.7(3.6)、平均年齢86.9歳(85.9歳)、入退所の状況は年間入所者32人、退所者24人(33人)、うち要介護度1,2の特例入所1人(0人)となっています。看取り介護14人(4人)実施いたしました。

(2) 百花のいえ

職員の看護師配置を1名から2名にし、利用者の体調管理、介護職員へのアドバイスを行い、事故や誤薬などをなくしました。看護師が常時配置していることにより、疾病の早期発見につながり、夜間の医療機関への受診が減りました。

内訳は利用者定員20人に対し、平均利用率97.3%(97.6%)、平均要介護度3.9(3.7)、平均年齢91.2歳(91.1歳)、入退所の状況は年間5人(6人)となっています。看取り介護3人(1人)人実施いたしました。

(3) ショートステイセンター

特別養護老人ホームへ、ベッド転換したため10床での稼働が始まりました。混乱もなくスムーズに移行できました。送迎する利用者も1日に2~3人程度と半分になり、送迎車を1台契約終了しました。

年間利用延人数は要介護者が3,831人(7,526人)、要支援者が54人(117人)、合わせて3,885人(7,643人)で利用率106.4%(104.4%)でした。

(4) デイサービスセンター

新型コロナウイルス感染防止のため、デイサービスは4月4日から5月7日まで、サンシャインクラブは4月3日から5月23日まで活動自粛いたしました。その後の活動については、車中などの密を避けるため、利用者の人数を制限し活動をいたしました。

年間利用延人数は、一般型の要介護者が2,454人(5,184人)、総合事業481人(1,278人)、合計2,935人(6,462人)で利用率は34.2%(71.7%)でした。

サンシャインクラブの年間利用延人数は、1,456人(2,415人)でした。

(5) 居宅介護支援センター

介護支援専門員 2 名で活動を行いました。 ご自宅へ訪問する業務につき、面接し利用者やご家族に丁寧に聞き取りをする、本来の仕事にも支障があり、電話や玄関先での訪問になってしまいました。 しかしながら、病院の地域連携室から「訪問看護と居宅支援が併設である」という理由から依頼の件数も増えました。

昨年度毎月実施しています「サン茶イン」については、1 年を通して自粛いたしました。ケアプラン件数合計件 658 件(649 件)でした。

(6) 訪問看護ステーション

4 月 1 日 安全祈願祭を行い業務を始めましたが、4 月の利用者はおりませんでした。考えられることとしては、コロナ禍になり、社会活動が止まったことと、営業活動が思うように進まなかったことがあります。 1 年間を通して、精神疾患や特定疾患をお持ちの方に訪問ができるように行政へ申請手続きを行い、活動につなげてきました。利用者は 5 月から徐々に増え始めてきました。

年間利用は契約実人数 22 人、訪問延べ件数 281 件でした。

(7) シルバーハウジング

山形市から委託を受け、山形市大森住宅シルバーハウジング（高齢者世話付住宅）に居住する高齢者に対し生活援助員を派遣し、安否確認、生活相談、緊急時の対応等のサービスを提供しました。 24 時間室内での活動がないと警備会社から電話連絡が入る仕組みになっています。 会話する機会を多くして、ご利用者様の癒しになっていただければと、誕生日のメッセージカードをさしあげる活動をしました。

内訳は、安否確認が 3,960 件(3,871 件)、生活相談が 29 件(24 件)、緊急対応が 6 件(3 件)でした。

(8) 地域包括支援センター

総合相談支援では、日頃の相談業務に加えて、各地区の三者懇談会に参加して地域に対する支援体制構築を行いました。 高瀬地区高齢者支援連絡会や楯山地区 COOP 買い物支援事業にも後方支援という形で参加させていただきました。 権利擁護では、消費者被害についての情報をお便り等を通して広報活動を行い、虐待が疑われるケースには随時対応しました。 包括的・継続的ケアマネジメント支援は、3 地区合同のネットワーク連絡会を開催し、高齢者実態調査の結果を地区役員の方々にも共有させていただきました。 介護予防ケアマネジメントでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、サロンは一つも開催できませんでしたが、まるっと☆おおもりと称した介護予防教室をお口の健康をテーマに 12 月に開催させていただきました。 内訳は初回相談件数が 159 件(134 件)、相談後の連絡・調整が 4,696 件(4,702 件)、介護予防ケアプラン作成が 1,707 件(1,708 件)でした。